

令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

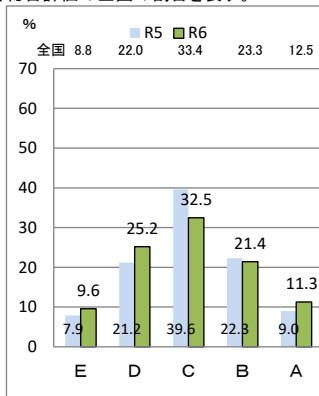
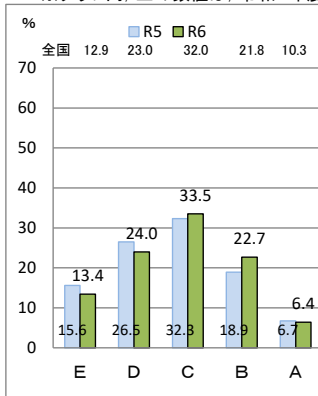
鹿屋市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

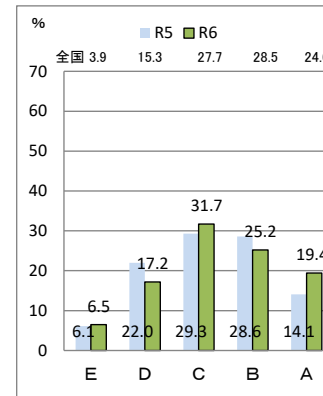
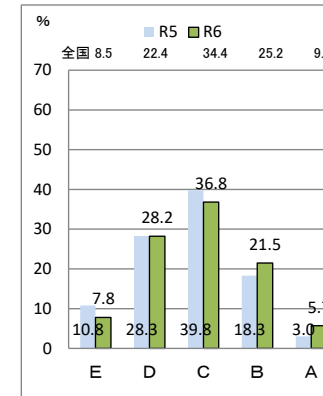
※グラフ内、上の数値は、令和6年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価標準(得点)を示す。

小学校 A: 65点以上 B: 58点～64点 C: 50点～57点 D: 42点～49点 E: 41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価標準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A: 57点以上 B: 47点～56点 C: 37点～46点 D: 27点～36点 E: 26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男子は昨年度に比べ、D、Eの割合が減少し、B、Cの割合が増加しているが、Aにおける全国との差は、-3.9ポイント開いている。女子は昨年度に比べ、D、Eの割合が増加し、B、Cの割合が減少しているものの、Aの割合は増加し、全国との差は、-1.2ポイントに迫っている。
- ・男女ともに体力の底上げを図るため、体力の実態に基づいた授業改善や業間体育等の取組を充実させ、運動量を確保する必要がある。

〈現状及び課題〉

- ・昨年度と比べると、男女ともにAの割合が増加していることに加え、男子はEの割合と女子のDの割合が昨年度に比べ、減少している。
- ・全国と比べると男子はDの割合が高く、A、Bの割合が低い。女子はC、D、Eの割合が高く、A、Bの割合が低い。
- ・下位層を上位層へ引き上げるため、運動への興味・関心を高めるための「楽しい保健体育の授業づくり」を進める必要がある。

【小学校 運動実施時間】

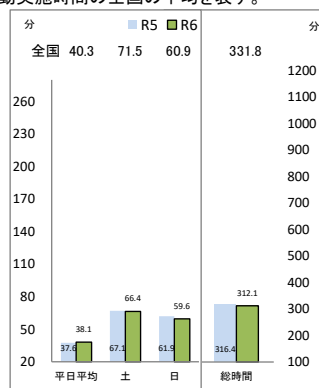
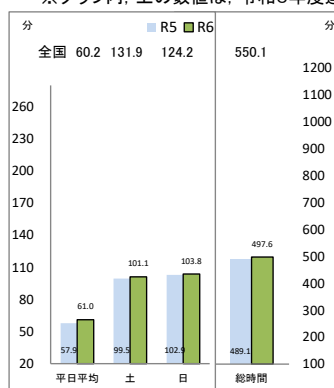
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和6年度運動実施時間の全国の平均を表す。



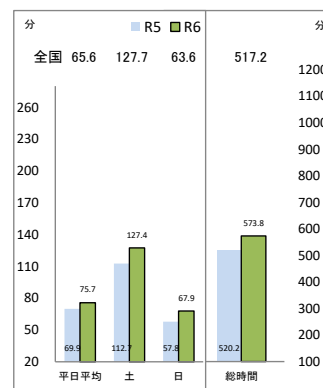
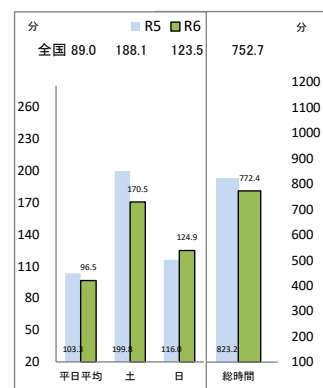
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、男女ともに昨年度と比べるとほとんど差がない。全国と比べると男子が52.5分短く、女子は、ほとんど差がない。
- ・平日の運動時間は、男女ともに全国とほとんど差がないが、男子の土日の運動時間が全国に比べ、51.2分短い。
- ・土日の運動を促進するため、家庭への啓発が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、男子は昨年度より50.8分短く、女子は53.6分長い。全国と比較すると男子はほとんど差はなく、女子は56分長い。
- ・土日の運動時間は、男女とも全国と比べ、ほとんど差はなく、平日の総運動時間は、男子が37.3分(1日約7.5分)、女子が50.4分(1日約10.1分)長い。

【改善策】

【小学校】

- ・「体力アップ！チャレンジかごしま」や「一校一運動」を奨励することによる、児童の運動実施時間を確保

【中学校】

- ・「楽しい保健体育の授業づくり」を進める授業設計の工夫

【共通】

- ・学校の実態に基づいた「運動大好き」かごしまっ子育成推進プランの作成と確実な実践・評価
- ・鹿屋体育大学が考案した子どもの運動プログラム「Exceed」の年間を通じた取組の推進
- ・体育・保健体育の授業へのアスリート等の外部講師の派遣を通じた児童生徒の運動意欲を喚起する教育手法の工夫